44

『博済病院塾則』について

永塚　憲治
公益財団法人研医会

今回は，漢医存続運動の中で浅田宗伯が院長を務めた博済病院（明治11年開院・13年焼失・18年再建）に関する史料を入手・発見したので紹介する．書高10.4×幅15.3 cmの横本仕立ての冊子で，外題は表紙に「博済病院塾則／険症備忘／其他徴候／漫録」と墨書で書かれており，巻首に「漫録」とあり以下本文巻．全1冊，全89葉．料紙は日本楮紙でやや黄変し，有界，四周単辺，版心白口・単魚尾，魚尾下間に「〇」を刻す．毎半葉匡郭，縦8.6×横13 cm，13行・不定字．巻末に朱筆で「天保二卯年三月ヨリ同未年／十月迄五ヶ年間福井丹波守／中西主馬頼山陽猪飼敬所／等ニ従学ス同年七申年五月ヨリ東京ニ開業旧幕府奥医師相勤御一新以来／家塾開業官許當所寄／留己卯五月早蕨典侍御産／掛同九月／明宮御匙（以上朱筆）滋宮御匙（以上鉛筆）辛巳八月（以上朱筆）明宮御匙（以上鉛筆）／滋宮御匙（以上朱筆）」の書き入れがある．

巻首に「漫録」とあるように，この冊子は雑多な資料を綴じたもので，博済病院の関するもの以外にも医方類聚採輯本と思われる『五臓論』（15葉）が転写されていたり，多紀安琢に関わるものと考えられる『東京多紀養春先生薬種一字』（2葉半）が収められている．またや売薬の店のリストと思われる「勿誤薬室信用薬店」（1葉）や「定案」（18葉半）と題されている医案も収められている．博済病院に関するものと考えられるものとしては，博済病院のあるべき診察の方法を述べる「博済堂診則」（半葉），それに次けてある末に「明治十四年五月日」を記す博済病院塾の学課の定義を述べる「博済病院／学課定式」（1葉），明治13年12月に博済病院が火災で焼失しその復興資金の募金を呼びかけたものと考えられる末に「辛巳一月　浅田宗伯惟常敬白」を記す「普済病院再造募帖」（1葉半），博済病院塾の規則である「塾則」（4葉半），博済病院塾の学課について詳しく述べる「学課」（3葉），博済病院の各科の業務内容を述べる「各科而无章程」（2葉），塾則の追加補遺である「塾則追加三条」（半葉），入門の際に書かせた身元保証書の書式と考えられる「保証状書式」（半葉）がある．

以上の内で目を引くのは，「博済病院／学課定式」と「学課」で，「博済病院／学課定式」では，「脈課」・「病課」・「証課」・「治課」の四つの課に学課が分かれることとその定義が記され，そして「学課」では「脈学」には『脈学私言』を，「病学」には『傷寒弁要』・『険証百問』・『雑病弁要』・『治瘟編』を，「証学」には『傷寒雑病弁証』を，「治学」には『古今薬議』・『傷寒翼方』・『雑病翼方』の九部の書物を『傷寒論』・『金匱要略』と並べて読むことが述べられている．これら九部の書は，すべて浅田宗伯によるものであり，脈・病・証・治といったように学課を四つ分類し教育するのは，浅田宗伯が『後芻言』の最後の「医学四科」で「頗得余意」とした「塾規」に同様のものが見られる．博済病院塾の学課は，『後芻言』の最後の「医学四科」で「頗得余意」とした「塾規」との類似点が見出されることから院長である浅田宗伯本人かその影響が強い人物の手によるものだと考えられる．